

取手駅前開発を考える会 ニュース No.1

2024.6.1

3月15日、取手市は市報で突然「取手駅西口駅前に『図書館を核とした複合公共施設』の整備を目指します！」と表明しました。

駅前の区画整理が終わったら、民間の再開発ビル（タワーマンション＋非住宅棟）の非住宅棟に床を買い♪、図書館を核とした複合公共施設整備する方針を決定しました♪。既存の取手図書館は廃止します♫。音楽スタジオ・カフェ・イベント空間も併設して、取手駅周辺の活性化、にぎわい創出を目指します♫。

ちょっと待って下さい、それで良いのですか？

●その計画はいつどこで誰がどのように「決定」したのですか？（図書館関係者も市の広報で初めて知って驚いたとのこと）●総工費 143 億円の民間ビルに 80 億円の公共投資は適正ですか？（その一方で「お金がない」との理由で各地区の保育所・公民館他公共施設は 27%削減進行中！）●図書館は駅前にあるのが良いのですか？●図書館をパチンコ店の近所に移転するのはありますか？（風営法の検討が必要？）●静かに本を読む場所に音楽スタジオやイベント空間を併設ですか！？●図書館で「賑わい創出」はできるのですか？●駅前ビルに空きフロアがあるのに、新たな施設で「賑わい創出」ができるのですか？●タワーマンションにしても維持も管理も難しく、建物の老朽化と住人の高齢化で将来廃墟化する危険が指摘されています。税金を使って行う再開発ならば、市の将来像を踏まえた「持続可能」なものである必要はありませんか？。

一度立ち止まって考えてみませんか？

市の上記計画は取手の「まちの顔」となる駅前の開発としてふさわしいでしょうか。図書館のあり方として適切でしょうか。拙速に過ぎないでしょうか。リボンビルやアトレの轍を踏むことにならないでしょうか。せっかくの再開発の機会です。私たち市民が納得できる再開発を模索しませんか。

私たちはより良い駅前再開発、より良い図書館行政を実現するために、一度立ち止まって再開発計画を再検討することを求めます。このため、次の二件の請願を議会に提出します。私たちの趣旨にご賛同頂き、

署名にご協力頂きますようお願い申し上げます。

1) 取手駅西口 A 街区再開発事業の再検討を求める請願

2) 取手駅西口再開発事業に係る「図書館等複合公共施設整備計画」基本構想に関する請願

シンポジウムを開催しました

私たちは、市の「3月15日方針」の是非を問い、市民の皆さんのご意見を伺うために、5月18日、福祉交流センターにて、「取手駅前開発とまちづくりシンポジウム」を開催しました。広報期間が短かったにも関わらず、100名のご参加を頂き、質疑も活発で、関心の高さが窺われました。

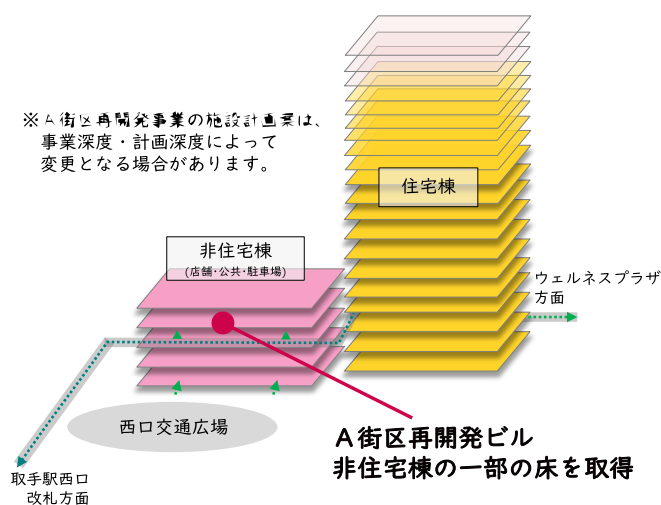
講演者の皆さんからは次のご指摘を頂きました

○遠藤哲人氏（区画整理・再開発対策全国連絡会議事務局長）：図書館は駅前にあることが必要なのか、図書館行政から見て望ましいか検討されたのか。図書館予定地のそばにパチンコ店があるが、それで良いのか、風営法との関係は検討されたのか。市の計画は地方財政の原則（最小の経費で最大の効果）に合致しているのか、「安易な公共施設引っ張り込みの再開発」ではないのか。補助金の大部分はデベロッパーに行き、地権者は土地の多くを失う。都市計画決定後は後戻りできない。市民はそれで良いのかよく考える必要がある。

○小池信彦氏（元日本図書館協会理事）：図書館は市民の書斎、自己研鑽・社会教育の場、地域の情報センター。賑わいを創出できるかは図書館そのものではなく、市民や行政が図書館に何を求め、どの様な活動をするかにかかっている。

○加増充子氏（取手市議会議員）：取手市は西口区画整理で長い時間と巨額の経費を費やし、市の財政を圧迫し生活基盤整備を後回しにしてきた。西口再開発は見直し、市は取手をどうすれば活性化するのか真面目に検討するべきだ。

○竹内有子氏（戸頭から市政を考える会）：市のやり方は一方的に過ぎるのではないか。駅前一極集中の開発で立派な図書館ではなく、各地区の公民館や図書室の整備こそが必要なのではないでしょうか。駅前開発は市全体の問題、もっと広く市民の声を聴いてほしい。



A街区再開発事業施設計画イメージ図
(取手市ホームページより)



取手駅前開発とまちづくりシンポジウム
福祉交流センター5月18日